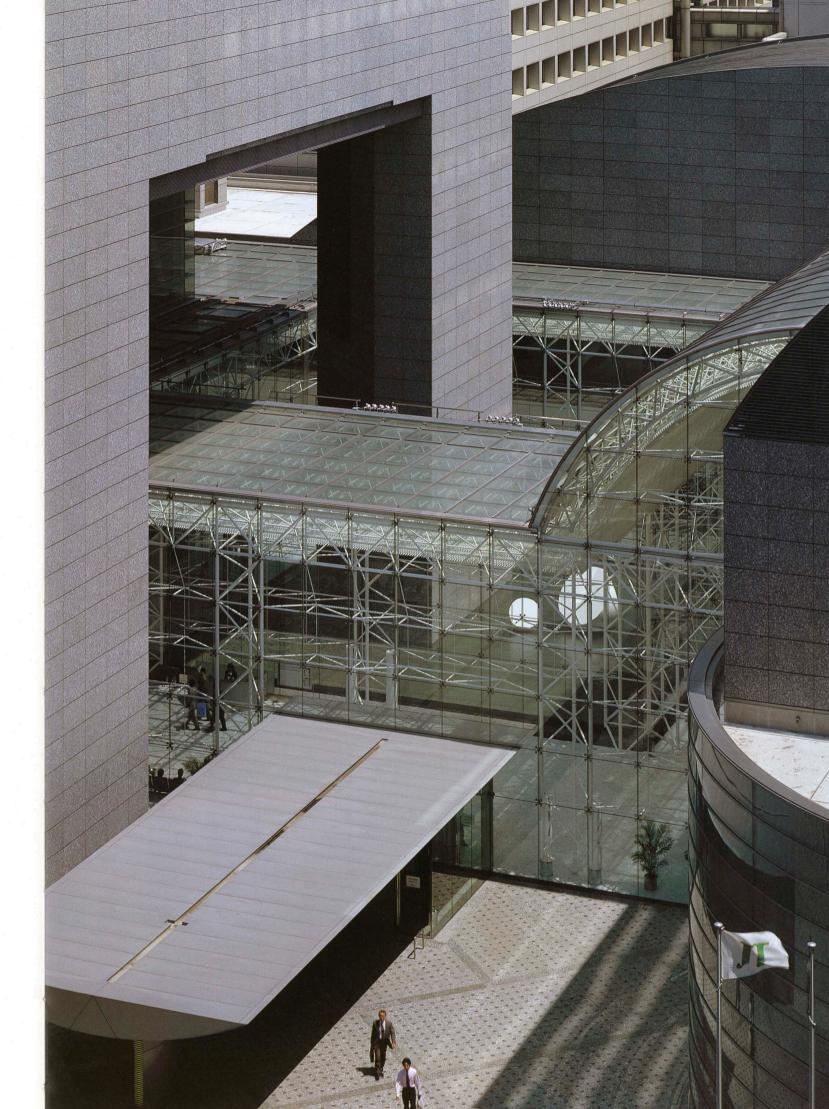
JTビンレ JT Building

竣工/1995年3月

所在地/東京都港区虎の門2-2-1 建築主/日本たばこ産業株式会社 設計者/株式会社日建設計 施工者/大成建設株式会社 鹿島建設株式会社 戸田建設株式会社 ジェイティ不動産株式会社 Location / Minato-ku, Tokyo Owner/Japan Tobacco Inc. Architect / NIKKEN SEKKEI Ltd. Contractors/Taisei Corporation Kajima Corporation Toda Corporation JT Real Estate Co.,Ltd. Completion Date / Mar. 1995



東京タワーから見下ろす Downward view from the Tokyo Tower. / 右: エントランス回りを見下ろす right: Downward view of the entrance.





アトリウム2階ホールへの通路 Passage to the hall in the atrium.



アトリウムのガラス越しに中庭を見る Courtyard viewed through fixed glass walls.



エレベータホール Elevator hall.







オフィス受付、タピストリーはシーラ・ヒックス作 Information in the office tower.



舟橋



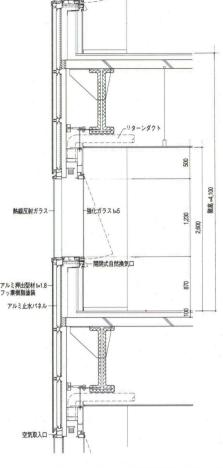
クラシックコンサートを主としたホール Classic concert hall.



オフィス内部 Interior of the typical office floor.



北側プラザより見る彫刻はケネス・ネルソン作 View from the plaza on the north.



エアフローウィンドウ断面詳細 縮尺1/60

事務室 事務室 事務室 事務室 店舗 駐車場 機械室 地域冷暖房施設 機械室

断面 縮尺1/1,500

建築概要

 $9.145.58\,\mathrm{m}^2$ 敷地面積

建築面積 4,714.28 m²

延床面積 66,999.11 m²

構造 鉄骨造 鉄骨鉄筋コンクリート造 鉄筋コン クリート造

階数 地下 3 階 地上 35 階 塔屋 2 階

工期 1991年11月~1995年3月

仕上げ概要

外部仕上げ

屋根/アスファルト防水押えコンクリート ステン レス溶接工法(ア)0.4mm 外壁/リブ付きアルミ押出 し型材プ1.8mm フッ素樹脂塗装 花崗岩⑦38mm ジェットバーナー仕上げ 開口部/アルミカーテン ウォール フッ素樹脂塗装 外構/花崗岩で38mmジ エットバーナー仕上げ

内部仕上げ

[アトリウム]床/大理石⑦25mm水磨き 壁/大理 石⑦25mm水磨き アルミ押出型材(パンチング)ウレ タン樹脂塗装 天井/ルーバー(アルミ押出型材)ウ レタン樹脂塗装 「ホール」床/パーケットフロー

リング(ア)19mm 壁/ホワイトオークリブ材および練 付け PB 塗装 天井/PB 塗装 [ホワイエ] 床/タイルカーペット(ア)7mm 壁/ガラスクロス 塗装 天井/PB 塗装 「事務室」床/タイルカ ーペットア7mm OAフロアH=100mm 壁/ビニ ルクロス 天井/岩綿吸音板(ア)15mm(システム天井)

設備概要 -

空調 方式/基準階事務室:変風量単一ダクト方式 エアフローウィンドウ併用 熱源/地域冷暖房施設 より冷水・蒸気を受入(地冷: ボイラー27 t/h 冷 凍機4,340 USRT)

衛生 給水/上水・中水 2系統給水 重力給水方 式 給湯/飲用:電気式個別分散給湯方式 雑用: セントラル給湯方式 排水/汚水・雑排水分流方式 電気 受電方式/スポットネットワーク受電22kV 設備容量/約11,000kVA 契約電力:3,000kW 予 備電源 非常用ディーゼル発電機1,500kVA×2台 特殊設備 厨房排水除害 中水製造設備 ゴミ処理 設備:コンパクター・コンテナー方式 非接触式出 入管理設備 施設管理設備 ホール関連設備 (照明 • 音響)

1953年に建設された旧本社ビルと1967年に竣工した葵会館 が撤去されて計画されたものである。この周辺は病院、印刷 局、通信社などのビル群がそれぞれほぼ敷地いっぱいに建て られ、ホテルや大使館などへの道筋としては、ゆとりや親し みのある空間ではなかった。この「JTビル」は、本社機能 をもつテナントビルとして、立地条件のよいこの土地の有効 活用を図るべく計画された。そしてこの土地の大部分を開放 し、街行く人びとに自由に出入りできる憩いと安らぎの場を 提供しようという大胆なコンセプトが実現されている。

30階の高層オフィスを4本の大柱によって地上約20mに持 ち上げ、地表レベルはオフィスの玄関ロビーと一部商業施設 を除いて広く開放され、公共空間と一体となった都心のオー プンスペースが生み出された。前面道路側のプラザには、空 間に安らぎが感じられるようにみどりの樹林がゆるくカーブ して植樹されている。金属のパイプとワイヤーによる大きな 彫刻が空中に浮遊し、人びとに親しみを与えている。オフィ ス棟下部のアトリウムの水盤にもさざ波にゆれる浮き彫刻が 置いてあり、これらのアートが高層棟を支える石貼りの巨大 な壁面と巧みなコントラストをなして、このオープンスペー スを軽やかな場に変えている。

また2階ホールの壁には、深奥な緑青色のパネルのアート ワークが嵌め込まれ、よく建築と一体になって、人間的な親 しみのある空間をつくり出している。

超高層のカーテンウォールの窓回りには、エアフロー方式 の2重窓が設けられ、高層ビルでは実現しにくい自然換気を 可能にし、省エネルギーを図るとともに、時間外の執務環境 の向上につとめている。この建物の外観の特徴は屋上に設け られたヘリポートのデザインである。最近都内各所の超高層 ビルにさまざまなかたちのヘリポートがデザインされている が、丸底の皿型断面のこのヘリポート、従来のニューヨーク などにみられる先細りのシルエットと対比して、興味深く思 われる。下から見上げるヘリポートの底は凹型に分節されて 軽快感を出すなどデザインに工夫がある。防災計画に新しい 技術が開発されれば、また新しいシルエットが生まれるであ ろうが、最近のひとつのかたちを示している。またこのオフ ィス棟の4隅のダクトスペースは45度の鋭角で垂直に深い刻 みが施され、単調になりがちなタワーに彫刻的な緊張感をつ くり出し、線と面の構成する表現は表情に厳しさを与えてい

もてる技術を十分に使いこなし、将来的にも維持管理が容 易な仕上げ材とディテールが検討された無理のない設計であ る。これら正統な設計手法のもと、初期の段階からアートワ ークの参加も理想的な協力体制がつくられてすぐれた作品と なっている。施工上も外装パネルのBOX型吊り工法や走行 トロリー装置など新しい技術も開発された。企業イメージも 発揮されて、虎の門のランドマークになった建築である。

This combination company headquarters and tenant building makes excellent use of its site location. Although neighboring hospitals, printing companies, and news agencies all cover their sites to the full extent, the bold planning concept of the JT Building leaves the larger part of the land area open as a rest and relaxation zone for all passersby.

Four huge posts raise the 30-story office tower to a height of about 20m from ground level, which, with the exception of the entrance lobby and some commercial facilities, is public space. For a calmer mood, trees have been planted in a curving line in the plaza adjacent to the road on the front side of the site. By contrasting with the stone cladding of the walls supporting the elevated office tower, sculptural art works greatly lighten the mood of the open space. For example, a suspended sculpture of metal pipe and cables has become a familiar local eye-catcher. Another work of sculpture seems to float in the pool in the atrium beneath the office tower. In the second-floor hall, mural panels in deep verdigris tones integrate with the architecture and humanize the space.

Natural ventilation, considered difficult to achieve in highrise buildings, is made possible by the use of 2-layer air-flow -system windows in the office-tower curtain walls. This both contributes to energy conservation and improves the after-hours working environment.

The most striking feature of the exterior is the design of the rooftop heliport. Its interesting round-bottom shape differs from the taper form seen frequently in New York and other large cities. Articulation into concave forms lightens the impression the design produces when viewed from below. The evolution of new disaster-prevention methods will no doubt result in different technology and novel silhouettes. But this heliport represents one of the latest trends.

Deep vertical troughs set at 45 degrees in the tower corners accommodate duct space and, by adding sculptural tension and the severity of line-and-plane compositions, relieve the monotony common to such structures.

The design makes full use of available technology and treats finishing and details in such a way as to simplify maintenance and administration. New techniques-box suspension for exterior panels and traveling trolleys - were developed for the construction work. From the very outset, art was combined with orthodox design methods in an ideal cooperative system that elevates the industry image by creating a new landmark in the Toranomon district of Tokyo.